

# 地歴公民科学習指導案

科目	授業学級	授業場所	使用教科書	授業者
日本史A	1年3・4組 (3組20人, 4組20人)	1年3組	現代の日本史(山川出版社)	二宮勇貴

## 1 単元名

第2章 近代国家の形成と発展

## 2 単元の目標

- (1) 近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出, 文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容, 自由民権運動と立憲体制の成立に着目して, 開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について理解させる。
- (2) 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化, 政党の役割と社会的な基盤に着目して, 国際環境や政党政治の推移について考察させる。

## 3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
・開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について意欲的に追究している。	・条約改正や日清・日露戦争での勝利を通して, <u>我が国を取り巻く国際情勢や, 我が国についての見方がどのように変化したか, 考察し, その過程や結果を適切に表現している。</u>	・近代の日本と世界を関連づける資料から情報を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	・近代国家の成立とその背景についての基本的な事柄を, <u>欧米諸国や東アジア世界と関連付けて理解し, その知識を身に付けている。</u>

## 4 単元の指導計画 (8時間)

立憲政治を目指して  
憲法の制定と議会の開設  
東アジアの国際環境と条約改正問題  
清国との戦い  
藩閥・政党の対立と協力  
ロシアとの戦い (本時)  
日露戦後の国際関係と日本

## 5 教材観

明治中期の日本は, 欧米の近代化の過程を取り入れ, 東アジアの新興国家として, 世界史上で重要な地位を獲得していく時代である。中学校までに学んだ基礎的・基本的な知識を踏まえ, 特に, 世界史, 地理, 政治・経済といった科目を横断して多面的・多角的に考察することが可能な単元である。1年生は世界史Aで初めて本格的に世界史を学ぶ学年でもあり, 日露戦争を日本だけでなく, 世界史上の出来事として捉えることで, 歴史を様々な視点から考えるきっかけとなるような授業としたい。

## 6 生徒観

総じて授業には真面目に取り組むが、おとなしい生徒が多く、話し合い活動などには消極的な姿勢が見られる。また、定期テストにおいても単純な語句の暗記に終始している生徒が多い。歴史における因果関係を考察する活動については慣れていないのが現状である。

## 7 指導観

上記の分析結果を踏まえ、講義形式だけでなく、資料を基に生徒に考察させたり、判断させたりし、その結果を周囲と話し合ったり、発表させたりして共有するなどの言語活動を意図的・計画的に取り入れた指導が必要であると考えた。

そこで本時は生徒にグループをつくらせ、複数の資料が意図する内容を解釈・考察し、生徒間で話し合う場面を授業の中に設定した。

## 8 本時の実際

### (1) 本時の目標

日露戦争の前と後の日本の存在を、世界がどのように捉えていたか。複数の資料を基に読み取って考察し、その結果を適切に表現する。【思考・判断・表現】

### (2) 本時の評価規準

日露戦争の前と後で、日本の存在を世界がどのように捉えていたかを、複数の資料から読み取り適切に表現している。【思考・判断・表現】

(3) 本時の展開

	学習内容	学習活動	指導上の留意点 及び評価の観点	備考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>日露戦争の復習</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〈学習課題〉 日露戦争前後の世界の日本観はどのように変化したか。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日露戦争について中学段階までで学習してきたことを踏まえ、学習課題を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を振り返りながら、日露戦争の基本的な知識を整理させる。</li> </ul>	
展開 I 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシアとの対立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシアとの対立を踏まえ、日英同盟が結ばれた理由を考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本とロシアが戦争に及んだ理由と、日英同盟が結ばれた背景を考察させる。</li> </ul>	資料① 資料②
展開 II 10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>日露戦争</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日露戦争が、日本にとってどのような戦争であったかを考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日露戦争が、清国内（満州）や朝鮮半島を中心に争われていることに着目させる。</li> <li>日本の国力が限界に達していることに気付かせる。</li> <li>鹿児島出身の東郷平八郎を取り上げ、生徒の興味関心を引き出す。</li> </ul>	資料③ 資料④ 資料⑤
展開 III 20分	<ul style="list-style-type: none"> <li>日露戦争後の日本観</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三枚の風刺画から、日露戦争後、日本が欧米からどのように見られるようになったのかをグループで考察し、その結果を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本兵の大きさの変化に着目させ、西欧が持つ日本観がどのように変化したかを考察させる。</li> <li>三枚目の日本の帝国主義化を警戒する風刺画を取りあげ、今後の歴史の展開を想起させる。</li> </ul>	資料⑥
終末 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の帝国主義化とアジア</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〈まとめ〉 日露戦争前は、アジアの小国として見られていたが、戦争後はアジアの大国として見られるように変化した。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネルーの資料を基に、アジアの人々からは、日本はどのように見られていたかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧米からの評価と比較しながら考えさせる。</li> </ul>	資料⑦